

- 1 日時 平成 年5月20日(土)
- 2 単元名 『円と球』(10時間扱い/本時は第10時)
- 3 本時の目標

(1) 目標

これまでの学習を生かしながら、操作活動を通じて円の中心を見つけることができる。

(2) 本時の構想

個に応じるための本時の位置付けと手立て

どの子(どのグループの子)に何をするのか、どうなってほしいのか、その子への願い

4 本時の展開

学習の流れと予想される子どものあらわれ	留意点・村松Tの動き
<p>(一斉) <small>ちょうじや</small> 「億万兆 者スロットマシン」をしよう。一番大きな数を出した人には、億万長者になれるチケットをプレゼントします。 ・画面に投影された数字をみんなで読み上げる。 ・7~8回繰り返す。</p> <p>(個人) チケットからは、宝物の位置を表す皿(皿A)が見つかった。宝物のありか(円の中心)を求めよう。</p> <p>紙を2回折った交点      紙を重ね合わせる</p> <p>(班別) チケットの中からは、もう一枚の皿Bが見つかった。もとの皿の形がより大きい方が本物の皿らしい。皿Aと皿Bでは、どちらの方が大きい(直径の長さが長い)のだろう。</p> <p>紙を重ね合わせる      試行錯誤して、円の中心を見つける。</p> <p>紙を2回折った交点</p> <p>・模造紙で説明させる。</p> <p>皿Bがわずかに大きいようだ。これによると宝物は藤棚の辺りにありそうだ。探しに行ってみよう。 ・ごほうびのあめをもらう。</p>	<p>パソコン画面を投影する。 「大きな数」の復習 出た数字を板書する。</p> <p>同じ形の用紙を用意する。</p>  <p>皿A</p> <p>個別指導</p>  <p>皿B</p> <p>板書用掲示物用意 個別指導</p> <p>ごほうびのあめを隠す</p>